

生成AIを使う授業の運用チェック表

といのタネ

授業者: _____ 科目・単元: _____ 実施予定日: _____

参照資料は文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン Ver.2.0」です。各ステップの末尾に該当ページを書いています。

ステップ1 授業前に方針と規約を確かめる

ここでは、使うサービスが学校で使える条件を満たしているかを確かめ、確認日を残します。

No	確かめること	確認日	確認した資料・相手	結果・メモ
1	教育委員会・学校の方針で、使えるサービスに入っているか			
2	利用規約の年齢制限と、保護者同意が要るかどうか			
3	入力内容を学習させない設定ができるか、設定したか			
4	校長と学年の教員に共有したか			

迷う箇所は自分で解釈を決めず、学校の情報担当や教育委員会に確かめます。根拠は同ガイドライン10ページと19ページです。

ステップ2 使う場面を1つ選ぶ

ここでは、1コマでAIを使う場面を3つの中から1つに絞り、授業でやることを1行で書きます。

選ぶ	場面	授業でやること
	生成AI自体を学ぶ	
	使い方を学ぶ	
	教科等の学びで使う	

使わない場面の例として、定期考査・小テストでの使用や、情報活用能力が育つ前の自由な使用が挙がっています。根拠は同ガイドライン17ページと18ページです。

ステップ3 生徒への指示を決める

ここでは、生徒に出す指示を3つに分けて書き、スライド1枚にまとめます。

- 入力してよいもの: _____
- 入力しないもの: 氏名、写真、友人の名前、取材先の連絡先、_____
- 記録させる項目: ツール名、入力したプロンプト、日付、採用した部分、_____

- 出力を直す手順: _____

根拠は同ガイドライン19ページと20ページです。

ステップ4 提出物と発表会で確かめる

ここでは、AIの使い方を生徒自身の言葉で説明させる場と、そこで聞く問いを決めます。

- 確かめる場: 発表会 / 個別面談 / 振り返りシート のどれか

  _____

- 発表会で聞く問い1: _____
- 発表会で聞く問い2: _____
- 発表資料を校外に出す予定: あり / なし　ありの場合の相談先:

  _____

口頭発表で理解を確かめる工夫は、同ガイドライン20ページの Box-6 にあります。

ステップ5 保護者への周知と授業後の振り返り

ここでは、保護者に伝える3つの情報を書き、授業後に次回へ持ち越すことを残します。

- 使う目的と授業: _____
- 使うサービスと条件: _____
- 家庭へのお願い: _____
- 有料版を前提にしていないか: はい / いいえ
- 授業後に分かった困りごと: _____
- 学年会で決める議題: _____

根拠は同ガイドライン20ページ、22ページ、25ページです。

記入例

ここでは、記入の粒度を示すために、探究の時間で使う場合の一例を載せています。

- ステップ1 No.2: 確認日は授業の1週間前。規約の年齢条件を読み、保護者同意の要否を情報担当に確認した
- ステップ2: 教科等の学びで使う。グループで問いを話し合った後、足りない観点をAIに質問の形で3つ出させる
- ステップ3 出力を直す手順: 自分で答えられる質問に印を付け、資料に戻って自分の文で答えを書く
- ステップ4 問い1: AIの質問のうち、どれを採用し、どれを捨てたか
- ステップ5 家庭へのお願い: 家で使うときも、出力を提出物にそのまま使わないよう声をかけてください
- ステップ5 学年会で決める議題: AIの使用記録を評価にどう反映させるか